

令和7年度日本小児外科学会
第5回定例理事会議事録

日 時：令和7年10月29日（水）11：00～14：00

会 場：千里ライフサイエンスセンター 603-604号室

出席者：家入里志（理事長）、菱木知郎（副理事長）、内田広夫（理事・会長）、小野 滋（理事・次期会長）、加治 建、木下義晶、曹 英樹、田中秀明、平林 健、尾藤祐子、渡辺稔彦（以上理事）、田尻 達郎（以上監事）、田中奈々（庶務委員長）、照井慶太（庶務副委員長）、山田洋平（財務会計委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、柴田晶子（以上事務局）

11:30～

松浦俊治（専門医認定委員会委員長）、文野誠久（施設認定委員会委員長）、石丸哲也（専門制度庶務委員会委員長）

13:00～

大植孝治（第41回秋季シンポジウム会長）、淵本康史（第42回秋季シンポジウム会長）

出席者（WEB）：浮山越史（以上監事）、城田千代栄（会長付庶務委員）、工藤博典（NCD連絡委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、加治 建理事、渡辺稔彦理事とした。
2. 令和7年度第4回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項
 - 1) 第63回学術集会について（内田会長）

内田会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

 - ・医師/企業 30,000 以外の参加費（JSPA/AAPS 共通）について報告された。
 - ・10月1日から演題募集を開始したことが報告された。
 - ・外科学会専門医講習の予定について報告された。
 - ・MIS workshop の参加募集を2月頃から開始する予定であることが報告された。

会 期：2026年6月11日（木）～6月 13日（土）

会 場：名古屋コンベンションホール

主 題：Bright Future for Children

輝く未来へ 小児外科の技術を磨く

同時開催：・WOFAPS regional meeting

・MIS workshop (fee required) （会場：名古屋大学医学部附属病院）

2026年6月9日（火）

2) 第64回学術集会について (小野次期会長)

小野次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

- ・学術集会のテーマが決定したことが報告された。

会 期：2027年5月27日 (木) ～29日 (土)

5/26：理事会・評議員会・各種会議開催予定

5/27～29：学術集会

会 場：国立京都国際会館 (<https://www.icckyo.or.jp/>)

会 長：京都府立医科大学小児外科教授 小野 滋

学術集会事務局：京都府立医科大学小児外科 (事務局長 文野誠久)

学会運営事務局：日本コンベンションサービス

テーマ：Priority はこどものために—小児外科の継承と創造—

3) 第 41 回秋季シンポジウムについて (大植秋季シンポジウム会長)

大植秋季シンポジウム会長より資料に基づき開催準備状況が報告された。

日時：令和 7 年 11 月1 日 (土)

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

4) 第 42 回秋季シンポジウムについて (瀧本次期秋季シンポジウム会長)

瀧本次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき進捗状況が報告された。

- ・演題募集期間について、2026年6月15日 (月) ～7月15日 (金) で検討していることが報告された。

日時：令和 8 年 10 月 31 日 (土)

会場：一橋講堂

開催形式：会場開催+オンデマンド配信

テーマ：小児外科領域における最新技術の応用

5) 第 43 回秋季シンポジウムについて (加治次々期秋季シンポジウム会長)

加治次々期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき準備状況が報告された。

- ・2025年10月8日 (水) 第1回キックオフミーティングが WEB で開催され、開催概要の確認を行った他、仮趣意書を作成して早目に企業にアプローチすることになったことが報告された。

日時：令和 9 年 10 月 23 日 (土)

会場：久留米シティプラザ

テーマ：食道閉鎖症の診療最前線 —さらなるQOLの改善をめざして—

運営事務局：西日本企画サービス

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会 (田中委員長)

田中委員長より、資料に基づき報告された。

2025年9月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,599名 (うち海外3名)、評議員 271名、準会員 19名、名誉会員 60名 (うち海外8名)、特別会員 64名 (うち海外1名)、賛助会員 2団体の合計 2,013名+1団体である。

- ・8月末に逝去された特別会員の藤原利男先生、10月に逝去された名誉会員の黒田達夫先生の追悼文について確認があり、藤原先生の追悼文は名誉会員の宮野武先生、黒田先生の追悼文は慶応大学の藤野明浩先生に、機関誌委員会から依頼することとなった。
- ・「会員情報頒布に関する規則」に「会員情報の頒布を依頼できる者は、本学会員に限る。」を追記することが承認された。

(2) 財務会計委員会 (山田委員長)

山田委員長より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(3) 専門医制度委員会 (専門医制度各委員長)

文野施設認定委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・東京科学大学 (旧 東京医科歯科大学) の教育関連施設認定についての審議結果が報告され、承認された。
- ・少子化における今後の専門医制度の在り方について、継続して指導医手術要件の見直しや専門医・指導医育成のためのマッチング・オープンシステムの検討をしていることが報告された。
- ・8月20日に開催されたサブスペシャリティ領域懇談会に参加したことが報告された。
- ・10月14日に開催された第2回外科サブスペシャリティ領域連絡協議会について報告された。
- ・専門医機構認定のサブスペシャリティの研修細則の文言と一致しない「専門研修医」「専従」「兼任」といった用語について、定義や文言の変更を検討していることが報告された。
- ・2026年4月23～25日に札幌で開催される日本外科学会学術集会での専門医制度に関するセッションで、石丸専門医制度庶務委員長が発表予定であることが報告された。
- ・来年度の施設認定委員会について、平日開催の可能性を検討することが提案されたことが報告された。

松浦専門医制度委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2025年度 専門医認定委員会活動予定について報告された。
- ・2025年11月16日(日)に第24回小児外科専門医筆記試験を実施する予定であることが報告された。
- ・2025年専門医・指導医申請の状況について、専門医申請 (新規50名、更新77名)、指導医申請 (新規11名、更新43名)、名誉指導医新規申請 5名であったことが報告された。
- ・e-learningを取り入れた専門医更新基準案が報告された。

- ・指導医認定基準見直しの必要性について検討していることが報告され、現在、専門医制度委員会委員によって意見・アイデアをアンケート調査中であることが報告された。

石丸専門制度庶務委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・専門医制度に関する学会員からの問い合わせ事項と回答内容について報告された。
- ・10月29日17時から第2回教育委員会専門医制度委員会合同会議を開催予定であることが報告された。
- ・総合調整委員会から専門医制度委員会への依頼についての確認がなされ、議論の場を設けることとなった。

(4) 機関誌委員会 (田中秀明担当理事)

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・投稿規定の改定案が提示され、承認された。
- ・日本小児外科学会雑誌投稿論文の倫理的対応について報告された。

(5) 国際・広報委員会 (家入担当理事)

家入担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・国際・広報委員会委員のメンバーにSNS専用補佐として荒 桃子先生、花木祥二郎先生に加入することが報告され、承認された。これにより国際・広報委員会は17名となった。
- ・9月29日に第1回委員会が開催されたことが報告された。
- ・10月27日に株式会社メディカルノートとの情報発信の連携協定に関する会議が開催されたことが報告された。

(6) 保険診療委員会 (木下担当理事)

木下担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・9月9日第1回保険診療委員会が開催されたことが報告された。
- ・胆道シンチ核種へパティメージ注の不採算品再算定対応について報告された。
- ・10月16日、日本医学会より小児外科学会に高額療養費に関するアンケート調査の依頼があったことが報告され、委員会内で審議中の回答案が提示された。回答の方向性が承認された。
- ・外保連検査委員長より問い合わせのあった検査委員会生体検査コーディングについての回答が報告された。

(7) 教育委員会 (渡辺担当理事)

渡辺担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

- ・第4回サマースクールの計画について報告され、承認された。
- ・サマースクールの参加費は第3回まで無料としていたが、5千円～1万円程度の参加費の徴収を検討することとなった。
- ・開催日は2026年8月29日で、学生参加者は5・6年に限定する予定であることが報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、今回は特に報告がない旨が述べられた。

(9) 学術・先進医療検討委員会（木下担当理事）

木下担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・委員会活動による研究の論文の著者及び費用の学会負担について、9月末に要項および申請書をHPに掲載するとともに、会員宛メール配信で周知したことが報告された。
- ・NCD連絡委員会から2025年10月1日付で「NCDによる小児外科高難度38術式のリスクモデル作成と検証」に関する倫理審査費用負担申請が提出されたが、委員会で審議した結果、現担当理事（渡辺稔彦先生）の氏名が研究者名に含まれていないこと、運用要綱において倫理審査費用は対象外であることから差し戻しとしたことが報告された。
- ・ガイドライン委員会から2025年10月10日付で「腸回転異常症診療ガイドライン公開後アンケート調査」に関する日本小児外科学会雑誌掲載料（約10万円）の費用負担申請があり、委員会で審議した結果、承認されたことが報告され、承認された。
- ・学術・先進医療検討委員会から2025年9月30日付で「2023年度新生児外科全国集計」の結果をまとめてPSIにアクセプトされた論文のオープンアクセス化費用負担（621,754円）の申請が提出されたことが報告され、承認された。5年に一回、同様の支出が見込まれることが報告され、現在はオープンアクセスが主流であることもあり、理事会に報告すればオープンアクセス化費用は認める方向で進めることとなった。
- ・若手小児外科医のための研究助成について、9月末に要項および申請書をHPに掲載するとともに、会員宛メール配信で周知したことが報告された。
- ・若手小児外科医のための研究助成の申請期間、結果通知までのスケジュールが報告された。
- ・2023年に審議された3件の会員対象のアンケート調査の報告書を催促した結果について報告された。報告書および結果総括提出済のアンケートについて、学会ホームページへの掲載およびメール周知の可否について審議が求められ、承認された。
- ・2025年11月5日（水）17時-19時に委員会をWEBで開催する予定であることが報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・医療関係訴訟の鑑定に必要な候補者名簿の更新及び医療事故調査に関する外部調査員候補者名簿の更新作業に関する倫理・医療安全管理委員会での検討結果について、現在、

(7)医療関係訴訟の鑑定に必要な候補者名簿を更新する。

(8)医療事故調査に関する外部調査員候補者名簿を更新する。

と定められているところを、

(7) 医療関係訴訟の鑑定に必要な鑑定人及び医療事故調査に関する外部調査委員の候補者名簿を2年ごとに更新する。

本名簿は「1回以上更新歴のある日本小児外科学会専門医である日本小児外科学会正会員（名誉会員、特別会員を除く）」を対象とした公募により作成する。

とする案が報告され、改定案が承認された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- 2022年に承認されたNCD小児外科領域後ろ向き研究「新生児消化管穿孔における術式選択がアウトカムに及ぼす影響」（櫻井 毅 東北大学小児外科）の公表前審査の依頼について、データベース委員会で審査を行い、要旨・Authorship・研究計画に問題なしと判断されたことが報告された。しかし、日本小児外科学会が保有するデータを用いた臨床調査研究 研究実施計画書、及び「日本小児外科学会が収集した臨床データの取扱いに関する規則」に、結果の公表にあたって事前に理事会の審議を経ることが明記されているが、本件は審査依頼提出前に国際医学雑誌に投稿されていたため、審議の際に手続き上の不備が指摘されたことが報告された。
- 2020年度複数領域研究募集にて採用された課題「20-11：日本小児外科学会認定施設および非認定施設における小児急性虫垂炎手術の術中合併症と予後」について第1回審議での指摘事項が修正され、2回目の論文発表前申請が提出されことを受けて、データベース委員会で協議した結果が報告された。委員会からは、計画書との相違、主要評価項目のデータ定義に関する重大な不備、研究計画書記載の副次評価項目の解析未実施などの指摘があり、研究代表者に、研究計画書を出し直して再度承認を得るか、または、当初の研究計画通りの解析を行う必要がある、と回答することについて承認された。
- NCDデータを用いた研究の成果公表前審査の体制について審議されたことが報告された。研究成果公表時の謝辞については学会名を記載することとなった。
- 2024年度採択NCDデータ（小児外科領域）を用いた前向き研究「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性及び安全性評価」（研究代表者：内田広夫）について、NCD登録項目追加および研究計画修正の審査をWebで実施し、問題なしと判断したことが報告された。
- 2025年9月5日から9月22日に2025年度NCDデータ（複数領域）を利用した研究申請募集を実施したが、応募がなかったことが報告された。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

- 2025年7月20日・21日にPALS講習会が開催され、2名が参加したことが報告された。BLS講習会は7月19日に開催したことが報告された。
- 2026年のPALS講習会開催は、下記の日程で調整していることが報告された。
第一候補：2026年09月19日にBLS、2026年09月20~21日にPALS
第二候補：2026年07月18日にBLS、2026年07月19~20日にPALS

- ・第 63 回日本小児外科学会学術集会と第 39 回日本小児救急医学会学術集会で開催するジョイントセッションについて、【『小児外科一般疾患の救急現場での対応—小児救急医と小児外科医の視点から—』 対象疾患：腸重積、嵌頓鼠径ヘルニア、中長軸捻転 など（ごく一般的ですが、見落とすと致命的になるもの）を】を小児救急医の視点から・小児外科医の視点から、という双方向からのディスカッションを両学術集会で行う予定で、小児救急医学会の担当者と打ち合わせをしていることが報告された。
- ・日本小児外科学会 HP に認定施設小児救急受け入れ状況掲載する予定であることが報告された。
- ・2025 年 10 月 26 日に開催された小児救急連絡協議会について、PALS 講習会受講者が少ないという指摘があったことが報告された。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・「トランジション実態に関するアンケート調査」について、久留米大学倫理委員会での倫理審査を進めていることが報告された。
- ・小児外科疾患のトランジションと都道府県の移行期医療の連携の可能性について、委員会委員が所属している医療圏について情報収集を行ったことが報告された。都市部では移行期医療センターと小児外科分野と連携を進めている事案もあった一方、移行期医療センターが設置されているが小児外科と連携がない県もあった。都道府県単位ではなく施設単位で移行期医療の構築を進めている地域もあり、地域により成人移行期医療の取り組みや進展状況もさまざまであったことが報告された。総合診療科が成人移行期医療の窓口として機能しつつある地域もあり、今後の移行期医療の連携科として期待されることが報告された。
- ・2025 年 10 月 1 日に WEB で開催された日本小児科学会の移行支援委員会に加治担当理事が参加したことが報告された。その際、2025 年 10 月 1 日に公表された中央社会保険医療協議会の資料で『移行支援』の内容が盛り込まれたことが情報共有されたことが報告された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会（尾藤担当理事）

尾藤担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

- ・PSJM2025 で開催される委員会企画講演会について報告された。
- ・第 63 回学術集会での企画について、働き方改革アンケートの結果報告とそれに関連したパネルディスカッションを予定しており、詳細を委員会企画グループで検討中であることが報告された。
- ・働き方改革施行後の実態調査アンケート結果について、施設対象アンケート最終回答率 95.2% (209 施設中 199 施設)、個人対象アンケート最終回答率 25.2% (認定施設・教育関連施設勤務者に限定すると 50.1%)であったことが報告された。今後について、第 63 回学術集会での結果報告や、英文化も含めた論文作成を行っていく予定であることが報告された。U45WG とどのように分担するか相談中であることが報告された。
- ・小児外科医の求人広告の掲載について検討していたが、専門医制度委員会でマッチング

システム導入などについて検討されていることから、今後の動向が決まるまで保留とすることになったことが報告された。

- ・日本外科学会の持続可能な医療提供体制構築を目的とした NCD 研究について、外科医労働環境改善委員会委員である木下義晶先生（日本小児外科学会理事）、城田千代栄先生（日本小児外科学会評議員）、荒 桃子先生（日本小児外科学会評議員）と協力し、小児外科領域で調査する内容を検討していくことが報告された。
- ・理事会から、本学会におけるハラスメント対応について検討するよう依頼されたことを受けて、他学会におけるハラスメント対応について情報収集を行った結果、当学会と同様にホームページに「ハラスメント防止宣言」を掲載するなどの対応に留まる学会がほとんどであったことが報告された。今後の取り組みについて検討し、方針がまとまってから SNS やホームページなどを通じて広報する予定であることが報告された。

(15) 規約委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・日本小児外科学会雑誌投稿論文受付 No.25007 の倫理的妥当性に関して、委員会で審議した結果が報告され、承認された。
- ・10月9日に WEB で研究倫理委員会が開催されたことが報告された。

(17) NCD 連絡委員会（渡辺担当理事）

工藤博典 NCD 連絡委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・第4回理事会で報告された小児外科-NCD 術式対応表への追加提案をした 12 術式について、専門医制度委員会と協議の結果、1 術式を取り下げ、12 術式を提出することが報告され、承認された。
- ・取り下げとなった術式「HS0021 膀胱尿管逆流手術（気膀胱による）」について報告され、泌尿器科系学会との連携・すりあわせを、NCD 連絡委員会が実務レベルで担当することとなった。
- ・「ロボット支援下胆道拡張症手術」の NCD 登録について報告された。
- ・新規保険収載術式が NCD-P 術式になるまでのフローチャートが提示され、実務フローの確認がなされた。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、小児外科学会 HP で 4 月 15 日に公開済であることが報告された。Minds から公開前評価結果が送られてきたので、Minds からのコメントに対する対応をガイドラインの詳細版に記載し、10 月 14 日に Minds ライブラリへの公開後評価の申請を行ったことが報告された。また、第 63 回日本小児外科学会学術集会での発表形式について委員と胃軸捻転症診療ガイドライン作成グループ

の深堀優先生とで審議し、ガイドラインの全体像で 1 題、それ以外に 3 題（診断、治療、手術）の 4 題の発表を目指して演題登録することとなったことが報告された。

- ・腸回転異常症診療ガイドラインについて、公開後のアンケート調査結果についての和文論文を作成し、本学会誌に投稿予定であること、費用負担に関する申請書を学術・先進医療検討委員会に提出済みであることが報告された。
- ・先天性食道閉鎖症診療ガイドラインについて、統括委員会・作成グループで CQ の重複・統合候補・削除候補をまとめ、CQ ごとに PICO を設定し、メール審議を行っており、2025 年 11 月中に、web 会議を開催する予定であることが報告された。
- ・『好酸球性消化管疾患ガイドライン』作成協力の依頼があり、統括委員として加治建担当理事が参加することになったことが報告された。
- ・日本医学放射線学会主導の「画像診断ガイドライン 2026 年版」のうち、BQ/FQ についての外部評価の依頼があり、BQ/FQ 外部評価委員として、加治建担当理事と住田 互委員長を推薦することとしたことが報告された。また、委員会内で本ガイドラインの BQ/FQ を回覧し、評価を行っていて、現在審議中であることが報告された。
- ・学会 HP 掲載診療ガイドラインの更新について、次期更新について 2026 年 1-3 月で作業を行い、2026 年 5 月頃にアップロードする予定であることが報告された。

(19) 利益相反委員会（尾藤担当理事）

尾藤担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・9 月 19 日に開催された利益相反委員会で、委員会規則および今年度の活動方針を確認し、自己申告書の検証方法や今後の運用方針について意見交換を行ったことが報告された。また、今年度の重要事項として「COI 申告書のデジタル化」を推進する方針が確認されたことが報告された。
- ・すでに「COI 申告書のデジタル化」を導入している日本外科学会に対し、Forms の作成・運用方法、外部業者の関与、費用、運用上の留意点等を照会し、
 - Forms の作成・管理はすべて日本外科学会事務局内で実施。
 - 外部業者への委託はなし。
 - Microsoft Forms は無料または低コストで利用可能。
 - 申告は PC・スマートフォン等から可能で、個人情報管理は管理者のみが閲覧可能。といった回答を得たことが報告された。今後は、日本外科学会の運用方法を参考に、小児外科学会におけるデジタル化の具体的運用案を検討していく予定であることが報告された。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（渡辺担当理事）

渡辺担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・大塚製薬ならびに輸液製剤協議会より「リハビックスーK1 号輸液」、「リハビックスーK2 号輸液」、「プレアミンーP 注射液」に関して不採算品再算定の申請にあたり小児外科学会から意見書の提出を求められたことが報告され、承認された。
- ・田辺三菱製薬の「ウルソ顆粒 5%」供給停止/薬価削除に関して、「一般社団法人日本小児感染症学会」「日本小児栄養消化器肝臓学会」より供給継続の要望があり、同学会よ

り日本小児外科学会への説明も必要とされたことをうけて、10月14日に田辺三菱製薬の担当者らとともに保険診療委員会・医薬品・医療機器検討委員会の合同WEB会議が開催されたことが報告された。2024年2月に当委員会にて、「錠剤粉碎にて薬効が変わらないとの判断から小児科学会事務局へ供給停止やむなく問題なし」と報告されているが、日本小児外科学会としての方向性をどうするかについて審議が求められ2024年2月の見解を踏襲することが確認された。

- ・日本小児科学会薬事委員会より供給停止予定医薬品・医療機器品目審議の依頼があり、小児外科関連医薬品としてファモチジン散、ロペミン小児用細粒、ブスコパン錠などが挙げられたが、メール審議を行った結果、いずれも代替品で対応可能と判断し、日本小児科学会薬事委員会へ、その旨返答したことが報告された。
- ・国立成育医療研究センター・妊娠と薬情報センターより第4回{医療用医薬品の添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査}への協力依頼があったことに伴い、該当医薬品の選定を審議し妊婦に関する添付文書の記載変更を希望する薬剤がない旨を報告したことが報告された。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入理事長）

家入理事長より資料に基づき報告され、承認された。

- ・小児外科領域ロボット支援内視鏡手術導入に関する指針について報告された。
- ・学会HPに掲載されているプロクター基準改訂前・改定後のファイルが提示され、HP掲載内容を整備することが報告された。

(22) NCD-P Audit Ad-hoc 委員会（菱木副理事長）

菱木副理事長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・8月12日の理事会報告以降、修正選定した監査項目をベースに、リモートauditを含めた監査を対象とした研究計画書を検討し作成したことが報告され、研究計画の骨子が提示された。理事会にて方向性の承認が得られたら、再度委員会で細部を確認の後、慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会へ提出することが報告され、承認された。

(23) こども家庭庁連絡委員会（Ad-hoc）（平林担当理事）

平林担当理事より、口頭で報告された。

- ・仮称「こども家庭庁連絡委員会（Ad-hoc）」となっているが、省庁連絡委員会など名称を改め、医政局に足繫く通うことのできるメンバーが必要であることが報告された。

(24) 総合調整委員会（菱木副理事長）

菱木副理事長より、資料に基づき、報告された。

- ・U45WGから活動状況の報告、独自のSNS運用の提案、学術アンケート調査の申請、複数の学会への演題登録、論文投稿状況について説明があり、SNS運用については学会の構造とルールに従った統合的なアプローチが求められるため、国際広報委員会と直接協

議し、投稿チェック体制含めルールを詰めるのが適切であるという考えのもと、U45WGと国際広報委員会とがつながるよう、今後理事会でこの議題を上程する方針となったことが報告された。U45WGの正式な位置づけと予算の確保についても議論され、理事会でさらに検討することになったことが報告された。

- ・学会員を対象とするアンケート・疾患調査等に関する規則整理について、メール配信に関しては従来通り事務局が実務を担うが、会員情報および施設情報の取扱い方針については、国際広報委員会と学術・先進医療検討委員会が合同で整理し、周知することが適当であるとの意見が出され、今後その方向で検討が進められることとなったことが報告された。
- ・石丸専門医制度庶務委員長より、専門医制度の在り方についての3者会談の結果、専門医・指導医の取得が困難になっている現状が報告され、育成のための研修システムを考案することが最優先とされたことが報告された。また、地域ごとの必要数の把握も課題として指摘され、当面の対応策として学会HPでの公募情報掲載や会員への周知、認定施設へのアンケート調査等が提案されたことが報告された。
- ・次世代の専門医制度に向けた制度設計の再構築について、マッチング・地域ブロック制の可能性や小児外科専門医の適正配置のあり方を含めた検討・資格条件見直しなどが議論され、現行制度の部分的修正では不十分であり、制度全体の再構築が必要との認識で一致し、今後は専門医制度委員会と連携しながら理事会でも議論を継続することとなったことが報告された。

(25) 日本外科学会理事会（田尻監事）

田尻監事より、資料に基づき、報告された。

- ・日本専門医機構による新専門医制度における外科専門医更新基準について報告があり、日本外科学会から申請された外科領域専門医更新基準改訂が日本専門医機構から承認されたことが報告された。

(26) 四者協関連（家入理事長）

家入理事長より資料に基づき、報告された。

- ・アルフレッサファーマ株式会社が製造販売承認を有し、エーザイ株式会社より販売している『ケイツーシロップ0.2%』（成分名：メナテトレノン）について、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本小児科医会、公益社団法人日本小児保健協会、一般社団法人日本小児期外科系関連学会協議会が連名で安定供給の要望書を厚労省に提出することが報告された。
- ・10月1日付でHPVワクチンの男性に対する定期接種化に関する要望書を参加学術団体27団体、その他の学術団体5団体と連盟で厚労省に提出したことが報告された。

報告事項

1) 理事長報告（家入理事長）

- (1) 日本医学会からの寄贈本「分科会一覧」を受領した。
- (2) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中10月号」を受領した。

- (3) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.423」を受領した。
- (4) 厚生労働省からの掲示物「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について」を受領した。
- (5) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！Vol.212」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認（家入理事長）

次回定例理事会は令和8年1月20日（火） 11:00～16:00 大阪大学東京オフィスで開催する予定であることが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____